



軽音部バンド 県最優秀賞

白馬高2年生4人 結成4カ月カプリースショー

白馬村の白馬高校軽音楽部の2年生4人で構成するバンド「白馬 Caprice SHOW(カプリースショー)」は、本年度の高校軽音楽部の県フェスティバル「POWER LIVE 2020 KF」(県高校文化連盟音楽専門部主催)で最優秀賞に輝いた。県内外から集い白馬で

出会った仲間が、一つの音を紡ぎ出している。白馬に集ったメンバーたちは、ギター・ボーカルと作詞作曲を担当するリーダーの野川爽良君(17)と京都府出身の松本君(17)を中心に、ドラムの橋本裕樹君(17)と愛知出身、ベースの松下聖耶さん(17)と大町

打ち込むことばきなき「軽音部」に。昨年11月に寮で仲の良かった橋本君を、続いて同バンド名に引き込み、松下さんを呼び込み、活動を開始。6月に別のバンドのキーボードが加盟し、現在のバンドができた。

野川君は、現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

野川君以外は現在のバンドが加盟し、現在のバンドができた。

初心者の集まりだったが、野川君の「やるからには本気で」という呼び掛けに心し、練習を重ねた。厳しい指導にも信頼を置き、ついに10月の文化祭で入前での演奏「デビュー」をした。

無観客でも楽しく演奏
10月30・31日に長野市で行われた大会には、県内各高校から集った39バンドが審査員に見守られ演奏。コロナ禍で無観客で行われたステージだが、白馬のメンバーは「始まりまでは不安で緊張しましたが、いざ始まる」と意外と笑顔で演奏できました。「技術よりも披露したのは、野川君のオリジナル曲「Harezora」(ハレゾラ)。白馬の夏の川沿いで作曲したという歌は、夢への一歩を踏み出せない人へ向けた応援ソング。「歌を聞いて晴れやかなすがすがしい気持ちになってもらえたら」と思いを込める。

野川君は最優秀という評価を「結成4カ月で個々の技術もまだまだない中で、驚きました」と感想を話した。この目に向けて、限られた時間の中で何を表現するか、編曲や練習内容も含めて考え抜いてきた。「技術よりも聞いている人に思いが伝わらないと。このメンバーで演奏しないと意味がない。そういう面で評価されたのがうれしかった」と喜んだ。

野川君は「白馬にはいろんな人が集まって統一感がないようだが、一人一人の個性がある」と仲間との出会いを喜び、音楽を通じて、この仲間での表現を広げていく。



左から吉村さん、橋本君、野川君、松下さん



結成4カ月、初心者もいるとは思えないパフォーマンスで演奏



県高校フェスで堂々と演奏する4人